

大垣市金生山化石館

化石館だより

コラム

アプローチの石組には化石がいっぱい

金生山化石館の入り口に向かうアプローチには、大きな石がたくさん敷き詰められています。これらの石は、すべて金生山で採掘された石灰岩です。切断したり研磨したりせずに、掘り出したままの状態です。表面がでこぼこして歩いていくにはかなり抵抗があります。こんな石を敷き詰めたのは、石に含まれている化石も野外展示物として利用したいと考えたからです。これらの石には、各種のフズリナ、四放サンゴ、ウミユリ、巻貝、二枚貝などの化石が入っています。どこにどんな化石が入っているか見つけるという楽しみ方もできますし、こうした化石が母岩にどのような状態に入っているのかを観察しながら、堆積時の様子などを想像することもできるのです。



アプローチで見つかる化石をいくつか紹介しましょう。

化石館の入り口近くにある一際大きな石には、びっしりと縦筋が見られます。ほとんどの方が気にも留めずに通り過ぎてしまいがちですが、これは二枚貝の殻が密集して化石になったものなのです。



縦筋を指でたどりながらよく見ると、かなり大きな貝であることが分かります。これは、シカマイア・アカサカエンシスとって、史上最大とも言われている巨大な二枚貝

です。館内展示の標本からは、幅が80cm、長さが160cmくらいあったと考えられています。

シカマイアの化石は、この石だけではなく、アプローチの他の石や建物の土台石の中にもたくさん入っています。また、左の写真のように、シカマイアの殻の表面（一部分）が圧力によって波打つような姿に変形したものも見られます。





これはアカサキエラ（旧：マーチソニア）の断面です。少し押しつぶされた状態になっていますが、この近くに入っている小さな巻貝の断面は、円形でほとんど



変形していません。右下にはワージェノフィルム（四放サンゴ）の断面も見られます。渦巻き状をしたベレロフォン



の断面が入っている石もあります、探してみてください。

左写真は、四方サンゴのワージェノフィルムが密集しているところです。縦断面はこのように見えますが、横断面は右写真のようになります。ワージェノフィルムは、フズリナの中に交じっていることもあります。



す。フズリナだと決めつけず、良く観察してみてください。



お知らせ



大垣城の化石ウォッチングと化石磨き体験

8月12日（月） 午前8時30分 スイトピアセンター文化会館前に集合。

大垣城の説明や石垣に含まれている化石について解説を聞き、城内を巡りながら石垣に含まれている化石を観察します。その後、市のバスで金生山化石館へ移動し、フズリナを含む化石片を磨いてペーパーウエイトに仕上げる体験活動に挑戦します。

参加費は300円。解説書と自分で磨いたペーパーウエイトがもらえます。

申し込みは大垣市文化事業団総務課（☎0584-82-2310）へ。親子15組30名限定です。

問い合わせ： 大垣市金生山化石館

電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp